

令和7年度 林業普及週間現地情報

森林管理課

第6回宮古林業研究会の開催について

3月3日（火）

令和8年3月3日に第6回宮古林業研究会を開催した。今回は、良質な木材生産に不可欠な枝打ち技術の再認識と、作業における安全意識の向上を図ることをテーマに、福岡県を拠点とする山家林業の木村氏と立山植物園株式会社の立山氏を招き、座学と現地での枝打ち研修を行った。

「枝打ち」とは、樹木の幹から伸びる枝、特に枯れ枝や不要な生き枝を、その付け根付近から適切に除去する作業で、節のない良質な木材（無節材）の生産を主目的とし、樹木の健全な成長を促し、病虫害のリスクを軽減する効果も期待される。

午前の座学では、枝打ち時の安全対策や枝打ちの効果・方法について講習を行った。講義後には、参加者から安全装備に関する具体的な質問が多数寄せられ、講師と参加者間で活発な意見交換が行われ、参加者の安全意識の高さと、実践的な知識習得への意欲が伺えた。午後の現地研修では、第4回宮古林業研究会（令和7年12月11日開催 育成木施業研修）で育成木に選定したイヌマキを対象に、実践的な枝打ち作業が行われた。木村講師が枝打ち作業の手本を示し、安全な昇降方法（一本はしご使用時）、適切な枝の切除位置、作業姿勢などを解説した。その後、参加者一人ひとりが講師の指導を受けながら、実際にイヌマキの枝打ち作業を行った。参加者は、一本はしごを用いた不安定な足場での作業や、ブランチカラー^{※1}を確実に残す繊細な枝の切除に苦慮する場面も見られたが、講師からの丁寧な助言と指導により、安全かつ着実に作業を進めることができた。

無節材の需要が減少傾向にある現代においても、首里城を含む文化財修復など、特定の分野で高品質な木材が求められており、本研修で習得した技術は、将来的な文化財修復事業や、地域の貴重な木材資源の有効活用に大きく貢献する「技術的財産」となることが期待される。

今回は、宮古林業研究会員に加え、宮古森林組合の作業員12名も参加し、現場における実践的な技術と安全管理について、貴重な学びの機会となった。今後も、宮古島の地域特性や木材需要の変化を注視し、それに対応した技術指導や情報提供を行っていくことで、宮古島内の森林・林業の持続的な推進に向けて取り組んでいきたい。

※1 ブランチカラー：枝の基部にある、幹と枝の組織が融合している盛り上がった部分。これを残すことで、傷口からの病原菌侵入を防ぎ、樹木の回復を早める。



座学の様子



講義後の講師と参加者との意見交換



実習の様子（器具説明）



実習の様子（作業のお手本）



作業員による枝打ちの実践



枝打ち後のイヌマキ（→枝打ち）

（報告者：宮古農林水産振興センター 玉城、山城、仲宗根）